

# 令和6年度 第3回昭島市自殺対策計画審議会 議事録（要点）

《日時》令和6年7月22日（月） 午後4時から

《会場》庁議室

《出席者》17名

自殺対策計画庁内検討委員

|        |     |
|--------|-----|
| 長瀬 幸弘  | 会長  |
| 岡田 有司  | 副会長 |
| 渡部 尚   | 委員  |
| 山科 美絵  | 委員  |
| 窪田 みのり | 委員  |
| 後藤 渡   | 委員  |
| 橋本 久貴  | 委員  |

事務局

|                |          |
|----------------|----------|
| 保健福祉部長         | 萩原 秀敏    |
| 保健福祉部健康課長      | 原田 千尋    |
| 保健福祉部健康課地域保健係長 | 櫻井 晓子    |
| 保健福祉部健康課地域保健係  | 坂井 理絵    |
|                | ・ 戸村 愛   |
|                | ・ 蒲池 八千代 |

## 【議題】

### （1）子ども・若者の自殺の統計について（P. 9～P. 13）

昭島市では子ども・若者の自殺者数が多いという現状を踏まえて、新たな統計情報を素案に加えた。

P. 12「地域自殺実態プロファイル」における特徴（2）①年齢区分別の特徴について。

昭島市の自殺死亡率は全体では全国中央値 16.6 とほぼ変わらず、昭島市では 17.6 となっている。年齢別で比較すると、20 歳未満の自殺死亡率が 8.4、ランク A であり、自殺死亡率が非常に高い市町村（高い方から 10% 以内）となっている。昭島市の若者の自殺が多い傾向が読み取れる。その他にも 70 歳代がランク B、80 歳以上がランク C となっている。

P. 9（9）20 歳未満の自殺者数の推移（全国）について。20 歳未満の自殺者数は増加傾向であり、令和5年は810人となっている。（10）職業別自殺者数 学生・生徒等（全国）について。平成31年からの5年間のデータとなるが、分類方法が変わったため平成31年から令和3年までと、令和4年から令和5年とに分かれている。平成31年から令和3年までの総数では、大学生が最も多く、次いで高校生、中学生と続く。令和4年から5年は高校生の中でも通信・定時制、全日制など状況によって異なるが、いずれも大学生が多く、次いで高校生という結果になっている。昭島市の過去5年間の総数では、高校生が最も多いという結果になっている。

P. 11（11）小中学生の原因・動機（全国）について。自殺の原因・動機の統計は、遺族からの証言や遺書などを基に原因について推測で4つまで計上したものになる。小中高生の自殺の原因・動機で最も多いのは「健康問題」で276人となり、ついて「家庭問題」が233人となっている。

追加した統計情報については、以上となる。

【質疑・意見】

|            |   |
|------------|---|
| 岡田副会長      | (11) 小中学生の自殺の原因・動機について。健康問題とあるが、身体的だけでなく心的なものも含まれているという理解でよいか。  |
| 事務局（坂井）    | どちらも含んでいる内容になる。   |
| 後藤委員       | 11 ページ小中学生の自殺の原因・動機について。いじめが 9 % となっているが、これは合っているか。一般的にはいじめが自殺の大きな原因と思っていが、少なくないか。どう解釈しているか。  |
| 事務局（坂井）    | %ではなく、9 件という解釈。調査委員会などを通していじめと認定されるかどうかで、いじめと認定されないと計上されないと解釈している。  |
| 後藤委員       | いじめ認定されないと、どこに計上されていくのか。  |
| 事務局（坂井・櫻井） | 警察庁のデータを使って厚生労働省が作成している。学校教育現場でのいじめの認定の問題と警察庁でのいじめ認定扱いが不明確な状況。いじめの理由として、どの段階でいじめと認定されて計上されているのか、本人が書き遺したもので警察庁が判断しての数値なのか、調べてから回答する。                                  |
| 長瀬委員長      | いじめ以外に学友との不和 97 件とある。いじめを狭く捉えていて、限りなくいじめ以外にいじめに近い状態はこの中に含まれるのではないか。学友との不和がいじめに近い状態になっているのではないか。認定されないといじめにならないが、予備軍が含まれているという理解でいいのではないか。いじめ、学友との不和は一緒に考えてもいいのかもしれない。 |
| 事務局（原田）    | 自殺の原因というのは、当人が亡くなっているので、確認が困難。警察庁、厚生労働省が原因として挙げるのは、当人に聞く以外の当人が書き遺したものからの推測する形になるので、いじめと言い切れないものはいじめ以外で、いじめに近いいじめ以外が含まれるのではないか。  |
| 山科委員       | 13 ページの年齢区分別の特徴で、20 歳未満がランク A となっているが、昭島市での特徴といえば、学生の健康問題なのか。家族問題なのか。実務感覚で感じることはあるか。  |
| 事務局（櫻井）    | 係内の相談の中で感じていることは、家庭の問題。親の精神疾患やひとり親家庭によって、家庭内の人間関係の不調和で悩みを抱えている 10 代が多いと感じている。   |
| 後藤委員       | 自殺者の年齢区分別特徴で、70 歳代、80 歳以上がランク B・C となっている。昭島市の自殺者数の上位 5 区分との関係で、1・2・4 位は 60 歳以上となっている。高齢者が B・C ランクに入っていることに対して、昭島市での特徴的なものはあるのか。                                       |
| 事務局（櫻井）    | 全国的な傾向かもしれないが、理由としては健康・経済問題などがある。家族がいても夫・妻との関係性についての相談も多い。家族がいても家族との関係で追いつめられる、ストレスを感じる方は多くいると感じている。  |
| 長瀬委員長      | 先ほど昭島市でひとり親や障害をもっている親が多いとあったが、近隣他市町村と比べてひとり親が多い市なのか。障害をもっている親が多い市なのか。   |
| 事務局（萩原部長）  | ひとり親についてであるが、人口統計から昭島市は多摩地区 26 市の中でも離婚率が高く、26 市中 5 位になっている。また、母子寮などの施設も所在している   |

|       |   |
|-------|---|
|       | る。  |
| 長瀬委員長 | 上記受け入れをしている自治体である。昭島市の特性で、バイアスがかかっている場合がある。 |

## (2) 自殺対策の課題について (P. 30~)

P. 30 5 自殺対策の課題について。自殺総合対策大綱においても「自殺は、多くが追い込まれた末の死である」とある。自殺の背景には精神的な健康状態だけでなく、経済・生活・社会的な孤立など、複数の要因がある。「自殺対策支援センター ライフリンク」がまとめた「自殺実態白書 2013」によると、自殺で亡くなった人は平均 4 つの要因を抱え込んで亡くなっている状況である。この 4 つの要因のどこかで、断ち切れるような支援をしていく必要がある。こういった自殺の背景、市民アンケートや学校団体調査を踏まえて、課題を 5 点抽出した。

P. 31 「課題 1」について。統計情報において、自殺の原因・動機として、「健康問題」が多い状況である。市民アンケート調査においても、悩みやストレス、不満を感じることとして「病気・健康の問題」が多い状況である。ここから『課題 1 市民の悩み・ストレスの主なものとして「健康問題」が多く挙げられている。身体的・精神的な健康だけでなく、社会的にも健康な状態に向けて支援していくことが必要』と考える。アンケートに回答した人が、身体の健康と捉えているか、心の健康と捉えているか不明確であるが、先ほどの連鎖を断ち切っていくためには、健康問題を広い意味で捉えて、矢印が断ち切れるように支援していく必要がある。

「課題 2」について。市民アンケート調査において、国や東京都、昭島市の相談窓口を知っている市民は約半数程度である。自由意見においても、今回のアンケートを通して自殺対策事業を知ったという方が多くいる。ここから『課題 2 「困った時は抱え込まずに相談していい』ということを市民が認知できるように、市民に対して自殺対策事業の普及・啓発を行っていくことが必要』と考える。関係機関や学校など様々な場で周知していくことで、困った時はここに連絡したらいいということを市民の方々が認識することを目指していきたい。

P. 32 「課題 3」について。市民アンケート調査において、ゲートキーパーという言葉を知らないと回答した人が 73. 6% である。また、昭島市がゲートキーパー研修を開催していることを知らないと回答した人が 82. 5% である。一方で、身近な人が悩んでいる時の対応について、ゲートキーパーの役割相応の回答を選択している人が多くいる。ゲートキーパーという名称は知らなくても、必要な対応方法を理解している市民が多くいると考えられる。ここから『課題 3 こころの SOS のサインを見落とさないように、ゲートキーパーの役割を実践できる市民を増やすことが必要』と考える。他自治体の自殺対策計画では、ゲートキーパーの認知度を高めることを目標にしている自治体もあるが、昭島市では言葉の認知度を上げるよりも、実践できる人を増やしていくことが重要と考える。

「課題 4」について。市民アンケート調査において、相談したい相手について 86. 1% が家族や親族と回答している。一方で、悩みやストレス、不満を感じるのは家庭問題であると 37. 2% の人が回答している。また、統計情報において、昭島市の子どもの自殺者数が全国・東京都と比較して高いことが挙げられる。家族だけで悩みを抱え込まず、身近な人に SOS のサインを出せるような地域づくりが必要である。ここから『1 人で悩みを抱え込んで孤立しないように、お互いが支え合えるような地域づくりが必要』と考える。府内における他の分野別計画においても、コミュニティづくり、地域共生社会を目標に掲げているが、自殺対策においても目指したい方向は同じである。日々の相談・支援業務を通して、既存のサービスでは間に合わない、手が足りないこともある。サービスが利用開始できるまで

の間、市民の活動団体や近所の協力者に協力いただくなど、地域づくりに力を入れていきたい。

P. 33 「課題 5」について。統計情報において、自殺の動機・原因の多くは、健康問題・家庭問題となっているが、その内容は相談者によって多種多様である。相談の主訴や背景を把握していくためには、支援者の相談スキルが重要となる。そこから『課題 5 市民の相談に対応していく上で、年齢や性自認を問わず、相談者の悩みや背景の把握に努めていくことが必要』と考える。日々の相談業務の中で、相談の主訴以外にも様々な問題が潜んでいる場合も多くある。家庭問題、経済問題が関連していたり、失業することでの経済困窮という連鎖など、相談を重ねる中でみえてくる課題も多くある。そのためには、支援者側の価値観や先入観は置いておき、話をよく聞くというスキルが必要となる。

#### 【質疑・意見】

|         |  |
|---------|--|
| 岡田副会長   | 若者の自殺が多い中で高校生が多い傾向だが、学校に通えていたのか、不登校の状態であったのか。フリースクールや行政機関などにつながっていたのか、地域づくりの視点も含めて聞きたい。  |
| 事務局（櫻井） | 昭島市内の公立高校で保健講話をしている中で、養護教諭との話の中から、高校 3 年間の中で地域とつながっていない生徒がほとんどである。家庭の問題など地域とつなげづらい現状がある。児童福祉法の関係で若者の関わる部署が 18 歳までという縛りがある中で、高校生が積極的に行政機関とつながることは難しい現状がある。自分から SOS を発することができるようという思いで、保健講話をしている。行政の相談窓口の時間の中で高校生が相談に来ることは難しい現状があり、都のライン相談などを活用しながらではあるが、地域の方々と高校生をつなげるにはどうしたらいいのか、協力いただける市民と連携を図りながら、着手し始めている状況である。 |
| 後藤委員    | 課題 1 について、社会的にも健康な状態とはどのようなものか。  |
| 事務局（原田） | 地域づくりの視点もあるが、孤立せずに地域の誰かとつながっている中で、生きていくという意味合いになる。   |
| 後藤委員    | 課題 4 にある「地域づくりが必要」に関連することであるが、地域の方とのつながりをどう作っていくか。地域の関係団体、老人クラブやサロンや子ども食堂のような認識でよいか。   |
| 事務局（原田） | そのようなイメージと認識している。  |

#### （3） 施策案の検討（P. 34）

1 自殺対策の基本方針（2）関連施策との有機的な連携による総合的な取り組みについて。自殺に追い込まれようとしている人が地域で安心して生活を送れるようにするには、精神保健的な視点だけでなく、社会・経済的な観点を含む様々な分野の組織が密接に連携していく必要がある。様々な分野の生きる支援にあたる人々がそれぞれ自殺対策の一翼を担っているという意識を共有することが重要である。自殺対策として新しい取り組みをするのではなく、日々の相談業務や窓口業務などひとつひとつの市民との接点を丁寧に対応することで、困っていることや潜在的問題の表出につながったり、相談窓口につないでもらうことなど、連携していくことで、自殺対策につながっていくと考える。府内の連携が自殺対策として重要である。

P. 35 本計画の基本理念について。第一次計画と変更なく「誰も大切な一人 いのちを支え合うまち

あきしま」としている。現計画では、自殺者をゼロにするという表現があるが、審議会でいただいた意見を踏まえ、「昭島市では、自殺を個人の問題としてのみ捉えるのではなく、危機的状況に至るまでに地域の社会的要因があることを踏まえ、レベル・段階に応じた支援を推進します。また、自殺対策を通して、一人ひとりのいのち、心情・背景を尊重し、住民相互に支え合える街づくりを進めていきます。」と修正している。

P. 36 施策体系（案）について説明した。

#### 【質疑・意見】

|         |  |
|---------|--|
| 窪田委員    | 重点施策1（2）で若者向け相談とあるが、昭島市では何か取り組んでいることはあるのか。   |
| 事務局（櫻井） | 子ども家庭部等と協力しながら、子ども家庭部で行っている相談窓口を自殺対策からの窓口と一緒に周知している。子ども家庭部の相談窓口も載せてるので、連携しながら子どもの相談窓口を周知している。若年対象となる39歳までの相談・支援体制については、2年前から社会につながる前段階として、同じように悩んでいる人とつながることを目指し、グループ支援に取り組み始めている。 |
| 山科委員    | 課題が5題あって、その課題に対しての基本方針になっているのではないか。それぞれがどこに該当しているのか、記載しておいた方が分かりやすいかもしれません。基本方針から施策体系になっていくが、基本方針の中でどこに当たるのか、連動した記載方法の方が分かりやすいのではないか。  |
| 長瀬委員長   | 基本方針6点あるが、それが施策体系の中でどう対応しているか、理解しにくい部分もあるので対応を考えていく。事務局で記載方法の工夫をしてほしい。   |

#### 【その他】

- ・資料の郵送について、今後可能であればメールで対応していきたい。  
→メールアドレスの提供をお願いした。
- ・次回10月上旬開催予定。